

カタリナ

学報

第55号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2025. 12. 1



カトリック大学の独自性(Identity)について

学校法人聖カタリナ学園理事長 中田 婦美子



学校法人聖カタリナ学園は、この度創立100周年という記念すべき年を迎えた。ここに改めて、カトリック大学である本学の独自性は、キリスト教的価値観に基づく対話の中に、その使命があることを考察したい。

本学は、スペインから来日されたドミニコ会ロザリオ管区宣教師たちによって1925年に教育施設として創立され、日本における唯一のドミニコ会カトリック大学として発展し、今日に至っている。

ドミニコ会（正式には説教者兄弟会）は、約800年の歴史を持ち、中世期時代にローマ・カトリック教会が異端に翻弄されていた時、その正統な神学による「観想と説教」によって、教会をその誤謬から救い、歴代の教皇より「神学の擁護者」と称されている。

ローマ教皇庁教育省（現文化教育省）から出版された「カトリック学校のアイデンティティ：対話の文化を育むために」において、「カトリック学校は

そのアイデンティティを明確にしつつ、異なる背景や信念を持つ人々と真摯に対話し、共に歩むことが求められている」（2022年1月25日）と明記されている。

本学がカトリック大学として、建学の精神である聖ドミニコとシエナの聖カタリナの霊性について、ここに改めて考えたいと思う。

12世紀の聖ドミニコ・グスマンと彼の後に続く14世紀のシエナの聖カタリナの存在について、カトリック教会は次のように評価している。聖ドミニコの生誕800年祭の際に、当時の教皇パウロ6世から贈られた祝詞において、「聖ドミニコの霊性は、後の第二バチカン公会議で提唱された【刷新と適応】の精神をすでに生きていることの証しであり、今後観想と真理の勉学に励む教会の光となるように」と述べている。更に、シエナの聖カタリナについては、「来る10月4日にこの聖女が＜人々の前に輝く光＞となるように、教会博士の称号を贈るつもりで

あります。」と宣言している。(教皇在位7年：ローマ・聖ペトロ大聖堂において、1970年5月24日)

教皇ベネディクト16世も一般謁見演説の中で、「聖カタリナは現代に生きる私たちが勇気を持って、回心と刷新をもって聖性を目指して歩むように励ましてくれる存在です。聖カタリナは『私は聖なる教会のためにその生命を捧げることを、神が特別な恩寵をもってこれを許してくださいました。』と述べました。」と語っている。(2010年11月24日)

聖ドミニコの霊性を継承する聖カタリナが、その生涯を教会と教皇のために捧げた強い信仰は、聖ドミニコが兄弟たちに残した「悲しむことはない。私は死後において、さらに多くの恵みをあなたたちに与える。」という臨終の約束の言葉にあったと思う。(1221年8月8日)

聖ドミニコ会・ジェラード・ティモナ総長は、2025年のローマ総会において、修道会のミッションである宣教活動の任務について、次のように述べている。

「聖ドミニコは時のしるしを見ることによって次の世代に向けての優先課題として必要な示唆を与えている。すなわち、1. ドミニコ会的神学の現代への福音化の方法。2. 世俗化したキリスト教への再教育の必要性。3. 人類世界への正義と平和への希求。4. 特に高等教育における若者のためのソーシャル・コミュニケーションという新しい「対話」による宣教の必要性を」説き、まさに現代社会におけるドミニコ会的教育の進むべき方向性を指し示している。本学もカトリック大学として、広くアジア社会に目を向け、教会の希望である若者たち

に本学の使命を発信していきたいと考えている。

今日のように多様化した文化や宗教的価値観によって構成されている現代では、カトリック教育こそが、未来に向けた中心的な課題に対して、普遍的な価値観を有する存在として、その使命を果たすべきと考える。本学も絶え間ない技術革新とデジタル文化の普及に直面しており、専門的知識は、教育の使命の要である信仰、文化、生活の総合的使命を維持するためにも、時代のニーズに対応するためにも、新しいスキルを備える必要がある。すなわち、教皇フランシスコも現代の高等教育におけるより効果的な福音的活動として、「信仰・理性・科学」の出会いという対話の必要性を強調している。

たとえば、日米4教区（サンタフェ・シアトル・長崎・広島）による「核兵器のない世界のための」の共同声明が発表された。それは、「核兵器の保有そのものが倫理に反する」という教皇の呼びかけに答えて、日本カトリック教会、修道会、カトリック教育機関に属する法人として、世界平和と人類の共通善を促進し、対話による人格教育を目的としているため、本学園もその趣旨に賛同し加盟することになった。

本学におけるカトリック大学の独自性とは、まさに教皇レオ14世が「教会が共に宣教し、橋を築いて、常に対話し、あらゆる人に開かれる」ことを宣言しているように、本学も「AMOR ET VERITAS」(愛と真理)の建学の精神において、「信仰・理性・科学」との対話の中を歩むことを目指したいと思う。

●愛媛県社会福祉法人経営青年会と本学学生との意見交換会を開催

6月7日(土)、北条キャンパスにおいて「愛媛県社会福祉法人経営青年会」と本学学生による意見交換会を開催しました。

この意見交換会は、福祉現場で活躍する職員の皆さまと、福祉を学ぶ学生との交流を通じて、互いの理解を深め、現場の声と学生の視点を直接結びつけることを目的に行われています。

当日は、愛媛県内から複数の社会福祉法人に勤務する職員の方々が来学され、グループに分かれて意見交換を行いました。仕事のやりがいや課題、今後のキャリアについての話題を中心に、学生たちは現場で働く方々のリアルな声に耳を傾けていました。

学生からは「現場を具体的にイメージできた」「就職活動の参考になった」などの感想が寄せられ、また職員の方々からも「学生の率直な質問や意欲を感じられた」との前向きな声がありました。



●「元気な集落づくり応援団知事感謝状」を受賞（学生ボランティアセンター）

6月17日(火)、愛媛県庁にて「元気な集落づくり応援団知事感謝状」の贈呈式が行われ、本学学生ボランティアセンターを中心とした学生によるボランティア活動が表彰されました。

この感謝状は、祭りや清掃など地域活動の担い手不足に悩む集落と、ボランティア活動に関心を持つ企業・団体をつなぎ、地域内外の交流を促進する「元気な集落づくり応援団」事業において、特に積極的な取り組みを行った団体に贈られるものです。

今後も本学では、地域に根ざした実践の機会を大切にしながら、学生の成長を支援してまいります。



●2025年度看護学科特別講演を開催

6月27日(金)、松山市駅キャンパスにて、第5回看護学科特別講演を開催しました。講師には、長年にわたり小児の臨床の場で活躍されている、松山赤十字病院 小児救急看護認定看護師の阪田千春先生をお迎えし、「小児救急看護の実際と家族看護～initial impression（第一印象）を大切に」をテーマにご講演いただきました。

看護学科3・4年生と教職員の計97名が参加し、迅速な対応の重要性や家族支援のあり方など、実践的な知識だけでなく看護師として大切にしなければならないことについてもお話していただきました。参加学生からは、「機械だけに頼るのではなく、直接触れて観察することの大切さや、『何か変だな』と気づき行動する力の大切さについて学ぶことが出来た。」といった感想が寄せられ、今回の講演会を通じて、小児救急における看護師の役割の重要性とその専門性の深さを改めて学ぶ機会となりました。



●看護学科 庄野亜矢子講師が全国学会にて最優秀演題賞を受賞

看護学科の庄野亜矢子講師が、7月5日(土)・6日(日)に東京で開催された第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会において、優秀演題4題の一つに選出されておりましたが、学術集会当日に優秀演題のプレゼンテーションを行い、最優秀演題に選ばれ、表彰を受けました。

演題名は「COVID-19に対峙したクリティカルケア看護師のモラルディストレスの様相－倫理的局面に着目して－」研究代表者：庄野亜矢子（共同研究者：白柿綾、西田佳世）です。

本研究は、救急看護認定看護師である庄野講師の専門的な視点を活かした貴重な研究成果であり、丁寧な分析からの結果と考察が評価されました。



●松山市駅キャンパスにて第4回看護学科ホームカミングデーを開催

7月5日(土)、松山市駅キャンパスにて第4回看護学科ホームカミングデーを開催いたしました。当日は、1期生から5期生までの卒業生23名（1期生2名、2期生1名、3期生5名、4期生4名、5期生11名）にご参加いただきました。

久しぶりの再会に笑顔があふれ、在学生や教職員との交流を通して、懐かしさと新たなつながりが生まれる温かなひとときとなりました。



●日本社会福祉学会 中国・四国ブロック

7月12日(土)、松山市駅キャンパスにおいて、本学の坂原明学長を大会長、現代人間学科の村岡則子教授を実行委員長として「日本社会福祉学会 中国・四国ブロック 第56回愛媛大会」が開催されました。県内外から学会員、大学教員、行政職員、社会福祉関係者、大学院生・大学生ら総勢150名を超える方々にご参加いただくとともに、内閣府孤独・孤立対策推進室から古居直高氏を迎え、孤独・孤立の現状や孤独・孤立対策推進法に関してご講演いただきました。

第56回愛媛大会を開催



また、シンポジウムでは「実践活動からみる孤独・孤立支援の現状と今後の課題」をテーマに4名の実践者から孤独・孤立の実態などについて活発なディスカッションが展開されました。

●SON愛媛×聖カタリナ大学 EKSday合同スポーツイベントを開催

7月20日(日)、北条キャンパス記念体育館において、SON愛媛（スペシャルオリンピックス日本・愛媛）と健康スポーツ学科の学生が合同でスポーツイベントを開催しました。

今回は知的障がいのあるアスリート40名とそのファミリー、「パラスポーツ」履修学生のうち12名が参加し、100名規模のイベントとなりました。イベントでは、授業内で学生が考案したアダプテッド・スポーツ（障がいの有無にかかわらず楽しむことができるようルールを工夫したスポーツ）4種目（①フロア卓球バレー、②手つなぎサッカー、③転がしドッジ、④ペットボトルボウリング）をアスリートの方々と一緒に取り組みました。共生社会において必要な障害に対する理解や、スポーツの多様な価値観などを知る良い機会になりました。



●2025年度「聖カタリナ大学警察ボランティア」が活動を開始

7月19日(土)、松山西警察署から委嘱された「聖カタリナ大学警察ボランティア」が、今年度の活動を開始しました。

委嘱式が行われた後、学生たちはフジ夏目店にて、特殊詐欺被害の防止に関する広報チラシを配布し防犯を呼びかけました。

2年目となる本ボランティア活動は、地域の防犯意識を高めるとともに、学生自身が社会課題に向き合う貴重な学びの機会となっています。



●2025年度ボランティアウィーク実施報告（学生ボランティアセンター）

7月7日(月)から11日(金)までの5日間、ボランティアウィークを開催しました。

2025年度は、北条キャンパス・松山市駅キャンパス・聖カタリナ学園高等学校・北条高等学校の4会場で短冊募金を行いました。

皆さまからお寄せいただいた募金24,291円は社会福祉法人松山市社会福祉協議会「松山市まごころ銀行」へお届けし、松山市の地域福祉に役立てられます。

皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。



●第60回松山野球拳おどりにて 「聖カタリナ学園連」準優勝

8月8日(金)から10日(日)に開催された「第60回松山野球拳おどり」において、本学園の聖カタリナ学園連が、8月9日(土)の「団体連の部(審査部門)」に出場し、『準優勝』に輝きました。

今年度の聖カタリナ学園連は、学生・高校生・卒業生・キッズたち、総勢95名で参加。創立100周年という節目の年に、世代を超えた若い力が一体となり、迫力あるパフォーマンスを披露しました。

観客の皆さまからは、多くの手拍子や一緒にじゃんけんをしてくださるなど、たくさんのご声援をいただきました。



●聖カタリナ学園100周年記念オルガンCD発売

学園100周年記念プロジェクトの1つとして制作された、聖カタリナホールの大パイプオルガンを武久源造氏が演奏したCDが完成し、このほど発売されました。

武久氏は松山市出身、あらゆる鍵盤楽器に精通した音楽家として国内外より高い評価を得ておられ、本学にも機会あるごとに来演され熟知している楽器の特徴を最大限に生かした選曲、念入りの準備と全身全霊を注いだ演奏でレコーディングに臨まれました。

オルガン製作者の須藤宏氏も、本番の1週間以上前から現場入りして楽器の整音・調律に万全を期してくださいました。

さらには、音質の良さと定評のあるALMコジマ録音により、繊細で柔らかな美しさから荘厳な迫りまで余すところのない素晴らしい音色を聴くことができます。

本CDは、すでに専門誌等で推薦盤となるなど高い評価をいただき、全国のショップや通販サイト等で販売されています。



●「24時間テレビ48」のチャリティーイベントブース出店

8月31日(日)、南海放送本町会館1階で開催された「24時間テレビ48」のチャリティーイベントブースに出店しました。

当日、本学ブースではドミニカンクッキー、オリジナルトートバッグ、産官学連携事業で開発した「骨まで食べられる干物(魚)(商品名:まるとと)」を販売しました。

なお、収益金は24時間テレビチャリティー募金に全額寄付いたしました。

※骨まで食べられる干物(魚)(商品名:まるとと)

は、2010年度愛媛県産官学連携共同研究開発事業「高齢者、障害者参加型によるQOL向上食品開発研究」として、産「株式会社キシモト」、官「愛媛県産業技術研究所」、学「聖カタリナ大学」が連携を図り、高齢者施設・障害者施設・聖カタリナ大学で試食を繰り返しながら「食べやすさ」「おいしさ」「調理のしやすさ」などを検証し、改良を重ねて開発されました。



●臨地実習履修資格認定式を挙行

9月18日(木)、松山市駅キャンパスにて看護学科3年生80名が出席し、臨地実習履修資格認定式を挙行しました。この式典は、臨地実習履修資格を得た学生に対して、看護学生としての責任を自覚し、看護師という専門職に向けての志を高めることを目的としております。

式では、臨地実習履修資格認定証が授与されるとともに、学生代表者による宣誓が行われました。また、聖書を朗読して本学の建学の精神である「愛と真理」を実践するという意識を高めるとともに、日本カトリック看護協会(JCNA)の「ナースの祈り」を全員で唱え、周囲の人々への感謝の心を育み、看護の技を磨く知識と謙虚に看護する態度を身につけることができるよう誓いました。

臨地実習に臨む学生に向けて、中田理事長、坂原学長、西田学部長から激励の言葉が贈られ、また4年生の先輩から具体的なエピソードを交えたメッセージもあり、出席した3年生は臨地実習に向けての決意を新たにしました。



●看護学科学生がマレーシアで海外研修を実施

看護学科3年生5名が、マレーシアで2週間の海外研修を実施しました。本研修は、本学と協定を締結しているマーシャ大学の協力のもと行われました。マーシャ大学は医療・保健分野に強みを持ち、75か国以上の国から学生を受け入れている国際色豊かな大学です。

研修では、マレーシアの病院や高齢者施設、産後ケア施設などを視察しました。また、マーシャ大学の教員からマレーシアのヘルスケアシステムや疼痛管理、慢性疾患看護の講義を受け、さらに、マーシャ大学内の医学・看護シミュレーションセンターや解剖生理学の教育施設を見学することで、マレーシアの保健医療制度への理解を深めました。

学生間の交流も充実しており、本学学生は、英語で愛媛県と本学についてマーシャ大学の方々に紹介しました。クイズを交えたプレゼンテーションは、マーシャ大学の方々に大変好評でした。最終日には浴衣を着て、マーシャ大学の学生と一緒にドラえもん音頭を楽しみました。さらに歴史・文化を理解するために世界遺産の町マラッカ、プトラモスク、パドゥ洞窟なども視察しました。

この研修を通じて、学生たちは異文化の理解を深め、語学力を向上させるとともに、グローバルな視点で医療や看護を考える力を育みました。



●聖カタリナ学園100周年記念事業「2025年度愛媛銀行寄付講座」開催

9月26日(金)より、「2025年度愛媛銀行寄付講座」を開講しました。初回の開講式には、学生のみならず近隣からも多数ご参加いただき、愛媛銀行常務取締役松井宏治様と本学坂原学長の挨拶をもって幕を開けました。今年度は聖カタリナ学園100周年記念事業として、松山市駅キャンパスにて全8回開講する予定です。

第1回目は、「中年と高齢者では認知症予防が異なる!」と題し、東京大学高齢社会総合研究機構の酒谷薫先生にご登壇いただきました。先生には、65歳頃を境に切り替わる認知症のリスクとその予防方法についてご講演いただきました。認知症と加齢によるもの忘れの違いや認知症の症状といった基礎的なお話から、認知症の予防(進行させない)と脳を健康に保つための具体的な方法、さらには酒谷先生が現在取り組んでおられるAIを活用した認知症のリスク判定方法など、多岐にわたる興味深いお話を賜りました。



◆◇ 2025 年度前期行事 (2025.4.1 ~ 2025.9.30) ◇◆

月	日	曜	区	行 事
4	1	火		新任教職員研修、理事会
			大	健康スポーツ学科会議
	2	水	大	全学教授会、選考教授会、現代人間学科会議、看護学科会議
			短	教授会、人事教授会
	3	木		入学式
	4	金		オリエンテーション
	5	土	大	健康スポーツ学科ウェルカムキャンパス
	7	月		オリエンテーション
			大	研究倫理委員会
	8	火		会計監査 (～4/9)
	12	土		現代人間学科・保育学科ウェルカムキャンパス
	15	火		図書館委員会、研究紀要編集部会
	16	水		財務委員会
			大	看護学科運営会議、看護学科会議、健康スポーツ学科会議
		短		保育学科会議
	17	木	大	人事委員会
	19	土		オープンキャンパス
	23	水		学生生活委員会北条キャンパス会議、入試・募集委員会
			大	研究科委員会
	24	木		キリスト教研究所所員会議
	25	金		国際交流委員会
	26	土		評議員会・理事会
	28	月		I R 委員会
	29	火		学園創立記念日
	30	水		F D 委員会
5	7	水		会計監査 (～5/8)
			大	母をたたえる日 (松山市駅キャンパス)
		短		教授会
	9	金		広報委員会、学生生活委員会
	13	火		ボランティアセンター運営委員会
	14	水		母をたたえる日 (北条キャンパス)、教学マネジメント委員会
			大	全学教授会、学部長会議
	16	金		人間文化研究所所員会
			大	人事委員会
	17	土		オープンキャンパス
	18	日		看護学科教育懇談会
	20	火	大	Dean's List 表彰式 (松山市駅キャンパス)
			短	Honor's List 表彰式
	21	水	大	健康スポーツ学科会議、看護学科運営会議、看護学科会議
			短	保育学科会議
	23	金		学校法人聖カタリナ学園創立100周年記念式典
	24	土		理事会
	28	水	大	教務委員会北条キャンパス会議、研究科委員会
	29	木	大	Dean's List 表彰式 (北条キャンパス)
	31	土	大	大学院 F D 研修会
6	4	水		情報教育センター運営委員会
			大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
			短	教授会
	6	金		キリスト教文化研究所協議会 (～6/7)
	10	火		クラブ活動協議会
	11	水	大	全学教授会、学部長会議、研究倫理委員会看護学科分会
			短	保育学科会議
	12	木		S D 委員会
	13	金		おでかけキャンパス in 松山銀天街
	14	土		後援会役員会
	18	水		大学説明会
	19	木		交通安全講習会 (北条キャンパス)
	21	土		オープンキャンパス

月	日	曜	区	行 事
6	25	水	大	健康スポーツ学科会議、看護学科運営会議、看護学科会議
	28	土		評議員会・理事会
7	2	水	大	人事委員会
			短	教授会、保育学科会議
	3	木		衛生委員会、財務委員会
			大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
	5	土	大	看護学科ホームカミングデー
	6	日	大	オープンキャンパス
	7	月		ボランティアウィーク (～7/11)
	9	水		教学マネジメント委員会、国際交流委員会
			大	全学教授会、学部長会議
	11	金		地域連携推進室会議、おでかけキャンパス in 松山銀天街
16	水			学生生活委員会北条キャンパス会議
			大	健康スポーツ学科会議、看護学科運営会議、看護学科会議
	19	土	大	警察ボランティア嘱式、オープンキャンパス
	22	火		大学祭パイプオルガン演奏会実行委員会
	23	水	大	教務委員会北条キャンパス会議、研究科委員会
	24	木		入試・募集委員会
	25	金		理事会
	26	土		オープンキャンパス
8	1	金		おでかけキャンパス in 松山銀天街
	2	土		おでかけキャンパス in 今治
	5	火	大	夏季休業開始
	6	水		学生相談室運営会議
			大	全学教授会、人事委員会
		短		教授会
	8	金	大	オープンキャンパス
	9	土		オープンキャンパス、公開講座「風早の塾」
	19	火		S D 委員会
	20	水	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
21	木	短		保育学科公開講座リカレントセミナー
				おでかけキャンパス in 新居浜
	24	日		奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会
	25	月		奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会
	27	水	短	保育学科会議
	28	木	大	人事委員会
	29	金		S D 研修会
9	3	水	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
			木	第三者評価委員会
	6	土	大	大学院入試
	8	月		F D 研修会
		大		人事委員会
	9	火	短	人事委員会
	10	水		I R 委員会
			大	研究倫理委員会看護学科分会、研究科委員会
	17	水		奨学制度運営委員会
		大		看護学科運営会議、看護学科会議
18	木			夏季休業終了、人間文化研究所フォーラム、教学マネジメント委員会
			大	全学教授会、選考教授会、学部長会議、健康スポーツ学科会議
		短		教授会
	19	金		後学期ガイダンス
	20	土		総合型入試
	22	月		前学期卒業証書授与式
		短		入試・募集委員会
	24	水		学生生活委員会
			大	入試・募集委員会
		短		保育学科会議
26	金			第1回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	27	土		評議員会・理事会

◆◇ 2025 年度教授会議題（前期） ◇◆

【聖カタリナ大学全学教授会議題】

2025年4月2日 第1回

1. 退学について
2. 休学について
3. 除籍について

4. 2026（令和8）年度聖カタリナ大学及び大学院の入試概要について

2025年5月14日 第2回

1. 退学について
2. 休学について

2025年6月11日 第3回

1. 編入学生の精神保健福祉士養成の受け入れ中止について

2025年7月9日 第4回

1. 聴講生の受け入れについて

2025年8月6日 第5回

1. 退学について
2. 復学について
3. 前学期末卒業予定者の卒業の認定方法について

2025年9月18日 第6回

1. 前学期末卒業の認定について
2. 退学について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

2025年4月2日 第1回

1. 2026（令和8）年度聖カタリナ大学短期大学部の入試概要について

2025年5月7日 第2回

1. 退学について

2025年6月4日 第3回

※ 報告・連絡事項のみ

2025年7月2日 第4回

※ 報告・連絡事項のみ

2025年8月6日 第5回

1. 前学期末卒業予定者の卒業の認定方法について

2025年9月18日 第6回

1. 前学期末卒業の認定について
2. 退学について



聖カタリナ学園 | 創立100周年記念

百年一新

語り尽くせぬ伝統がある 語り継がれる未来がある

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えました。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616



◆◇ 2025 年度 クラブ等 活動状況 ◇◆

2025.9.1 現在

体育局（部）

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
クライミング部	4 / 19	にしけいカップ九州スポーツクライミングコンペティション2025	ノボルト	1	男子：14位
	6 / 8	Tottori Speed Cup 2025	鳥取県立倉吉体育文化会館倉吉スポーツクライミングセンター	1	男子：7 位
剣道部	4 / 6	第79回国民スポーツ大会「わたSHIGA輝く国スポ2025」剣道競技（成年男子・成年女子）選手選考会	愛媛県武道館	3	男子：出場 女子：出場
	5 / 18	第72回中四国学生剣道選手権大会 第57回中四国女子学生剣道選手権大会	愛媛県武道館	3	男子：出場 女子：出場
	8 / 3	第28回愛媛県レディース剣道大会	西条市総合体育館	2	女子：出場
硬式野球部	春季	2025年度四国地区大学野球連盟春季リーグ戦（1部）	四国地方内	—	優勝：10勝 5 敗（全日本大学野球選手権大会出場権獲得）
	6 / 8～11	第74回全日本大学野球選手権大会	明治神宮野球場	34	出場
サッカー部	通年	2025四国大学サッカーリーグ（1部）	四国地方内	—	5 位：1 勝 4 敗（2025年 5 月17日現在）
	通年	2025インディペンデンスリーグ四国	四国地方内	—	5 位：0 勝 3 敗 1 分（2025年 6 月 1 日現在）
	通年	2025年度愛媛県サッカーリーグ（1部）	愛媛県内	—	2 位：2 勝 1 分（2025年 7 月20日現在）
	6 / 7・14・21	2025年度四国大学サッカートーナメント	香川県内	—	準優勝
	7 / 5・19・26・8 / 25	2025年度四国大学サッカー新人戦	四国地方内	—	出場
女子バスケットボール部	5 / 10・11・17・18	2025年度全四国大学バスケットボール春季大会	高知県民体育館 高知市総合体育館	16	優勝
	5 / 24・25	2025年度全四国大学バスケットボール新人大会	松前公園体育館	16	出場
	6 / 2・3	第74回西日本学生バスケットボール選手権大会	Asueアリーナ大阪	13	出場
	6 / 22・7 / 6・13	第101回天皇杯・第92回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会愛媛県ラウンド	松山市総合コミュニティセンター、ツインドーム重信、北条スポーツセンター体育館	16	準決勝進出
	6 / 28・29	第75回四国地区大学総合体育大会	鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホール	16	優勝
女子バレーボール部	5 / 10・11	2025年度第54回四国大学バレーボール春季リーグ戦大会	とくぎんトモニアリーナ	6	Ⅲ部 4 位
男子バスケットボール部	5 / 10・11・17・18	2025年度全四国大学バスケットボール春季大会	高知県民体育館 高知市総合体育館	8	2 部 3 位
	6 / 28・29	第75回四国地区大学総合体育大会	鳴門・大塚スポーツパークアミノバリューホール	9	出場
ダンス部	5 / 11	ダンス公演（五月祭）	北条育成園	5	
	8 / 9	松山まつり「第60回野球拳おどり（団体連の部）」	松山市内	95	準優勝
なぎなた部	6 / 29	第79回国民スポーツ大会なぎなた競技愛媛県予選会	北条体育館	1	女子：出場
	7 / 6	第60回愛媛県なぎなた選手権大会	北条体育館	1	女子：出場
陸上競技部	5 / 9～11	第79回中国四国学生陸上競技対校選手権大会	ヤマタスポーツパーク	3	男子：（100m、200m、400m、走り幅跳び出場）

体育局（同好会）

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
スポーツサークル	通年	定期活動	聖カタリナ大学松山市駅キャンパス	—	

文化局（同好会）

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生赤十字奉仕団	通年	啓発活動（献血）	愛媛県赤十字血液センター大街道出張所	—	献血の呼びかけ、献血ルーム内の案内
	通年	松山赤十字病院 成育ボランティア	松山赤十字病院	—	小児病棟でのボランティア
	5 / 10	赤十字フェスタ in 松山大街道商店街	大街道三越前	2	赤十字の P R 活動
	7 / 20	啓発活動（サマーキャンペーン）	愛媛県赤十字血液センター大街道出張所	6	
きずな navi	通年	児童養護施設ボランティア	松山信望愛の家	—	施設での学習支援や生活支援
	通年	児童クラブ日中活動のサポート	Jackキッズ余戸 Jackキッズ枝松	—	児童の遊びのサポートや学習相談、日中の見守り
	7 / 19	ふれあい看護体験	聖カタリナ大学松山市駅キャンパス	9	
	8 / 23	児童養護施設 夏祭り運営	松山信望愛の家	10	
Disaster prevention ～命を繋ぐ～	通年	定期活動	聖カタリナ大学松山市駅キャンパス	—	

その他団体

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生 ボランティアセンター	7/7～11	ボランティアウィーク	聖カタリナ大学 北条キャンパス 松山市駅キャンパス	—	短冊募金

◆◇ 人 事 ◇◇

《2025年6月2日付け》

【新規採用】

（北条キャンパス）

総務課

技術職員（ぼ
けっと）（非） 西岡 愛結

《2025年6月30日付け》

【退職】

（松山市駅キャンパス）

看護学部

実習助手（非） 堀田 保子

《2025年7月15日付け》

【新規採用】

（松山市駅キャンパス）

図書課

事務職員（非） 市原 みう

《2025年9月30日付け》

【退職】

（松山市駅キャンパス）

看護学部

実習助手（非） 岡田 由香里

（北条キャンパス）

会計課

技術職員（守
衛）（非） 菊澤 善尚

《2025年10月1日付け》

【新規採用】

（松山市駅キャンパス）

看護学部

助手 岡田 由香里

《2025年11月1日付け》

【新規採用】

（北条キャンパス）

会計課

技術職員（守
衛）（非） 木原 敬吉

大学公式LINE



※QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。

大学公式Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



◆◇ 研究室探訪 ◇◆

「KAREI研」のご紹介

大学院看護学研究科療養支援看護学分野 (老年・在宅看護学領域)

聖カタリナ大学大学院 看護学研究科

教授 西田 佳世

本学では2022年4月に大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）が開設され、現在までに6名の大学院生が修士（看護学）の学位を取得し、大学院で学んだ「知」を活かし県内で活躍しています。

看護学研究科は、特徴のある3分野7領域で構成され、日々、院生と教員が多くを語り、切磋琢磨しながら研究活動に取り組んでいます。研究活動は、大学院修了がスタートラインでもあり、研究の必要性和面白さを実感できるのはこれからです。建学の精神である「愛と真理」のもと、探究した「看護の知」を地域の人々のよりよく生きる力に還元することができる看護学の未来を拓く、これが私たちに託されたミッションです。

今回、私たち、療養支援看護学分野の老年・在宅看護学領域のゼミをご紹介します。私たちの領域では、1期生2名を迎え、指導教員2名を加えた4名でゼミをスタートし、2024年3月に1期生1名が修了いたしました。これを機に、縁あって共に「看護の知」を紡ぎ合った仲間の糸を切ることなく、これからもさらに磨きをかけて、地域の人々に貢献できる力を養い続けるために、老年・在宅看護学領域に在籍している院生、修了生、教員が定期的に集まり、日々の看護や研究活動について語り合うゼミを立ち上げました。さて、ゼミの名前をどうしようかと考え、『KAREI研』と命名しました。私たちのゼミでは、高齢者とその家族の療養支援に関する看護を研究テーマとして、毎回、楽しく、そして熱い意見交換をしています。そして何より、熱く看護を語り合いながら、『華麗な』研究者として成長していこう！という思いをゼミの名称に込めることで、研究者としての自覚と自信、そして責任を感じながら、「看護の知」を探究する喜びと楽しさに満ちた意見交換の場になっています。

現在、KAREI研は、修了生2名と院生2名（来年も新たな仲間が増えそうです）、教員2名で構成され、奇数月の第3週の夜、共同研究室に集まり、にぎやかにゼミを開いています。修士論文の審査前や学会発表の前は、発表練習をしながら相談し、修了生やM1、M2の院生、教員から助言を受け、さ

まざまな刺激を受けて成長する機会になっています。発表後はその振り返りも共有し、新たな知の獲得にも繋がっています。また、この機会に、日頃、気になっている看護の課題をざっくばらんに意見交換をする中で解決の扉がパッと開くこともあります。このように2か月に1度のKAREI研は、通常のゼミとは異なるワクワク感と面白味があり、開催月がとても待ち遠しいものです。修了生2名は修士論文の一部を全国学会である日本看護研究学会において無事口演発表を終えることもできました（「中山間地域に在住する要支援高齢者の社会活動に影響する要因とその特徴」2024年8月奈良県開催、「療養行動に困難さを抱えている高齢独居2型糖尿病患者に関わる熟練看護師のベストプラクティス」2025年石川県開催）。

これからもKAREI研はメンバーを増やしながら『華麗な研究者』として、研鑽を積んでまいります。



KAREIな研究者たち
(このあと1人、職場から駆けつけました)



修士論文の口頭発表(石川県にて)

聖カタリナ大学・短期大学部学報
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-0702(代)
<https://www.catherine.ac.jp>
編集・発行
広報委員会
kouhou@catherine.ac.jp